

第二次改訂版（令和8年3月）

# 浸水被害住宅の技術対策マニュアル

令和5年3月

公益社団法人 日本建築士会連合会



## 本マニュアルの位置づけと留意事項

本マニュアルは、水害後の応急処置および応急復旧に関する一般的な考え方、及び実務上の参考資料を提供することを目的としたものです。

一般に、水害による被害状況は浸水時間、浸水場所、浸水の質、建物構造、使用材料、気象条件等の複合的な要因により大きく異なり、一律の基準や数値のみで建築物等の安全性や応急処置、及び応急復旧方法などの適否を判断することはできません。

本マニュアルに示す内容（数値・方法・事例等）は、過去の事例や当時の現場における知見に基づく参考情報であり、これにより特定の結果や性能、安全性を保証するものではありませんので、本マニュアルに基づいた実務上の対応等につきましては、必ず現地の状況を十分に確認及び把握したうえで、不明な点や判断に迷うことがあれば、必要に応じて専門家等の意見や判断を踏まえて対応して下さい。

## 第二次改訂にあたって

本マニュアルは、令和5年3月に初版を発行し、令和6年5月には災害支援関連制度の改正に伴う修正と若干の字句修正等の第一次改訂を行い、これまでに全国の建築士会で説明会を開催するとともに、令和7年8月に発生した大雨による浸水被害などで、実際に活用されています。

この間、マニュアルの普及・活用の進展により、被災現場経験者などから必ずしもマニュアル記載内容が被災現場の実態に即した内容ではないことなどが報告されるとともに、被災者からはマニュアルに網羅されている相談事例以外の復旧・復興に関する相談も寄せられ、加えて、被災者支援制度の改正も頻繁に行われています。

このようなことから、この度、これまでのご意見やご要望を把握するとともに、実際の被災現場での経験や新たな知見を盛り込んだ第二次改訂版を発行することとしました。

今回の改訂内容は多岐に渡ることから、改訂事項に関する基本的な考え方と主要な改訂内容を以下に示しますので、初版からの改訂内容を理解いただくとともに、改訂版の活用にあたっての参考としてください。

### [各章の改訂概要]

- 第1章 記述内容を豊富化していますが、基本的な事項の改訂はありません。
- 第2章・第3章 字句修正に加えて以下の考え方により改訂しています。
- 第4章 「復旧概算費用モデルシート」の削除以外の改訂はありません。

### [第2章・第3章の改訂にあたっての基本的な考え方と主な改訂概要]

- 1 被災者支援制度の改正による応急修理制度の支援金額の改正や被害の程度（認定基準）に「中規模半壊」が新たに加わったこと等による記載事項の修正を行っています。
- 2 上記の制度をはじめ、マニュアルに記載している様々な最新情報をweb上から入手できるよう、それぞれの掲載ページに情報入手先 URL と QR コードを掲載しました。
- 3 被災現場は浸水した汚水（汚泥）の状況や建築物の構造、材料等の状況、あるいは被災者の復旧・復興に向けた考え方の違いがあり、復旧方法の選択には「正解」はないことを前提として、判断はいわゆる「現場主義」を基本とすることとし、以下の修正を行いました。
  - ① 浸水直後と床下汚泥除去後の二段階の消毒作業を記述し、それぞれの消毒の目的を明確にしつつ、浸水の水質や基礎の構造等により、消毒の可否を含めた消毒方法を判断いただくことを追記しています。
  - ② 浸水後の改修工事実施を判断するための木材の含水率を20%としていましたが、カビの発生と含水率に関する根拠が明確ではなく、20%を満たすことは厳しいとの判断から、25%～30%程度までを「目安」とし、現場の状況によって判断していただくこととしました。  
また、家庭用扇風機を使用した乾燥作業への注意点を掲載しました。
  - ③ 浸水後の床下の応急処置については、浸水の水質や汚泥の状況に応じて作業方法を判断することと、断水によって水洗いできない場合は乾燥優先を記述するとともに、具体的な乾燥方法の事例を示しました。
- 4 被災者支援に関する制度改正に伴う記載内容（参考資料を含む。）の修正や追記に加えて、過去の水害被災者から相談のあった事例などを基に、Q&Aへの附番と内容を豊富化するとともに、それぞれの被災地において異なる実際の相談対応に即した内容としました。

# 目 次

## 第1章 はじめに

1. マニュアルの考え方と利用方法\_\_\_\_\_ 01
2. 応急措置での基本的な注意点\_\_\_\_\_ 02

## 第2章 被災住宅の応急処置と応急復旧工事

1. 水害後の復旧までの流れと注意点\_\_\_\_\_ 09
2. 水害後の復旧までの作業の詳細\_\_\_\_\_ 11
3. 復旧に当たっての注意点と推奨する施工方法\_\_\_\_\_ 36
4. 応急修理から本格的な復旧に向けて\_\_\_\_\_ 45

## 第3章 被災住宅の相談窓口業務

1. 相談内容の経過と分類\_\_\_\_\_ 52
2. 台風豪雨災害における相談活動の状況\_\_\_\_\_ 57
3. 相談員の心得\_\_\_\_\_ 64
4. 相談事例集\_\_\_\_\_ 66
5. 相談票の書式例と参考資料\_\_\_\_\_ 73

## 第4章 被災住宅の応急復旧体制の提案

1. 応急復旧体制の概要\_\_\_\_\_ 81
2. 応急復旧協力会の役割\_\_\_\_\_ 82
3. 応急復旧活動のフローと内容\_\_\_\_\_ 85
4. 応急復旧協力会の参考資料\_\_\_\_\_ 89
5. 応急復旧工事の概算費用\_\_\_\_\_ 93

